



Title	大阪府公害看視センター：最新の科学と技術の粋を 結集
Author(s)	
Citation	大阪公衆衛生. 1969, 21, p. 20-21
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84398
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



大阪府 公害監視センター

■施設をたずねて

最新の科学と技術の粋を結集

小雨のちらつく3月のある日、大阪府公害監視センターを訪ずれた。公衆衛生研究所の南隣り、もと消防学校跡にたてられたこのセンターは昨年9月に開所式を終えたばかり。最新の科学と技術の粋を結集し、周期的な公害防止対策を推進していくうえで重要な役割を果たすものとして、現在注目を浴びている。

地下1階、地上4階建てのこのセンターには、騒音震動の測定室、大気、水質の検査室等があり、47名の所員が勤務している。人影もまばらな館内は、床も窓もきれいに磨きあげられ、森閑としている。

近年、都市の公害問題がにわかにクローズアップされてはきたが、こういった監視センターが設立されているのは大阪だけとかで、いろいろな方面から、1日に100人余りの人が見学に来るという。

「38年に商工部に初めて公害課が設けられた時には、苦情処理の仕事に追われ、独自に調査、研究ということはなされてなかったようです。41年に企画部に公害室ができて、このセンターもその年に設計、翌年から工事に着工、全館竣工したのは43年の8月、それまではスモッグ注意報が出されると、各工場への連絡

は電話でしていたのですが、時間がかかりましてね、一通り終るころにはもう解除というようなこともあったのです。」というのが大賀庶務課長の弁。

大気汚染総合監視室にはNECのコンピューターが備えつけられている。府下、14の固定観測局と、1台の移動観測車で、硫黄酸化物、浮遊粉じん、風向、風速、温度、湿度などが測定され、10分ごとにこの部屋にデーターが電送されてくる仕組みになっており、こ



(測定室)

こで処理された結果に基づき、スモッグ注意報が発令される。

府下69の工場には、警報受信器が備えつけられていて、この部屋から指令があれば、燃料をかえたり、総業短縮をおこなったりして、協力体制にはいるというシステムになっている。

部屋の中央には、大きな電光掲示板があり、ボタンを押すと、ただちにその観測点の大気汚染状況がわかるようになっている。ちなみに、その時の大阪市衛生研究所における大気データーをとり出してみたところ、風向、風速、粉じん、温度、湿度などが即時にして数字で示された。

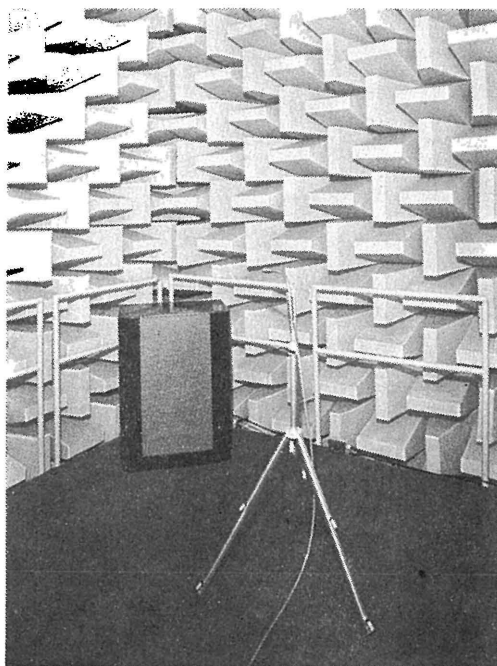
細い階段を降りて、地下の騒音、震動測定室の重々しい扉をあけると、足の踏み場もない位、無数のコードや機械器具が床面を占領している。無響室、残響室の中にはいつて説明を聞く。何とも変わった部屋で、1年早く万博の会場に迷い込んだような錯覚に陥る。

無響室の中は、ガラスの繊維をいれた無数のブロックで規則正しく、天井から床、四方の壁までうずめつくされている。一度、ゴミがはいったからといって、簡単に掃除することも出来ないと言う。ふと上をみると、エア・コンデショナーがほどこされてあった。隣の残響室は、床が多面形で、いろいろな形にまげた大きな板が15枚、天井からつるされていた。これだと、音が二度同じ道を通らないということだ。ひとくふう、照明を加えればアングラ喫茶にでも早変わりしそうな部屋である。

「こういったむずかしい調査、研究をされる方はどういう方面の出身の方ですか」「イヤァ、僕は事務職

員なんです」とは意外な返事。専門的な知識を修めた人ばかりだと思っていたので、「事務職の方でも、機械を扱って調査、研究という仕事ができるんですか」となれば驚いていると、横から「要は、やる気があるかどうかということですよ。その人の姿勢が問題ですね」と何気ない言葉。その中に若きパイオニアの活気をみせられたような気がした。

(文責 富永)



(無 響 室)



(大気汚染総合監視室)